

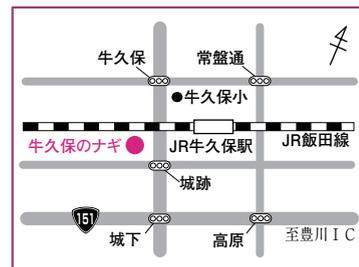


とよかわの

みつけた!



地域を見守り続けてきた牛久保のナギ



JR飯田線牛久保駅の西にある熊野神社の森には、樹齢300年以上といわれ、幹周りが約3.5メートル、高さが約20メートルのナギの巨木があるのをご存知でしょうか。

ナギは、マキ科に属する植物で、本州西部、四国、九州などの温暖な地方の山中に自生します。豊川市のような暖帯の北限に近い地域では、これほど大きくなることは珍しく、国の天然記念物にも指定されています。またナギは、雌雄が株ごとに完全に分かれているのも特徴で、この巨木は雄株のため実を付けませんが、雌株のナギが神社正面の右手にあり、夏には緑色の実を付けます。

ナギの葉は、別名「ベンケイナカセ」と呼ばれています。これは、葉の面全体に走っている筋が平行でちぎれにくいことからその名が付けられ、縁結びのお守りにもなるそうです。他にも、漁師の間では海の風（なま）にかけて、信仰の対象にされてきたそうです。

一度熊野神社を訪れて、長い間地域を見守り続け、人々の風習にも根付いた「牛久保のナギ」をご覧になってはいかがでしょうか。

